



門 2  
3273  
2



西洋旅行案内卷の下

太平洋飛脚船の立寄場所

太平洋の飛脚船ハ香港より亞米利加を通り歐羅巴までの間と往來を爲すものにて日本一を其往來  
小立寄の二度あり但し香港と横濱と其途中  
て上海ハ立寄を横濱より上海へと別仕出し  
の船ありて横濱を出帆し長崎へ寄て夫より上海  
小行の歸りハ先ニ香港一行し船と横濱より出逢  
ふ趣向をせしゆハ上海へ通ふ船に乗るハ横濱



福澤諭吉 著



西洋方  
 長崎との間、便船も出来、一香港を出帆して  
 横濱へ寄る。夫よりサンフランシスコへ往來を  
 船は、いままで唯一艘より一年、四度の往來を  
 せし。追々に新船出来、一月一度又ハ二度小  
 船を、先香港より横濱へ着る。二三日返  
 留し、船の仕舞出来次第、直出帆を  
 横濱より亞米利加、サンフランシスコまで、道程  
 九、二十五里、船中二十三日、ふと達、この二十  
 五里の海と即ち太平洋まで、世界中一番廣き大  
 洋、ふりサンフランシスコと丁度、日本の真東に當

所々、まじりこぼす。同處一渡海する船ハ、朝の  
 流、又風、の模様、由て往路ハ、北の方と廻り、歸路  
 と南の方へ寄り、此度の飛脚船ハ、格別の大船  
 にて、蒸氣の力強く、帆前を頼り、せざるゆへ、此大洋  
 と、真直に、乗切て、直にサンフランシスコへ着る。渡  
 海二十三日の間、山も見、島も見、茫然として、  
 て、空中を行く。如く波風を、夜甲板より出、月と  
 詠など、それ、其景色、淋しくも、あり、又面白くも、あ  
 り、ふんと、ぬく人の氣分、と引立る。きのなり。○途中  
 二サント、井チといふ島あり、模様次第、あて、あ



立寄るものとありて  
 サンドビハ日本と亞米利加との中程にて少  
 亞米利加の方へ近き所ありて萬國なる一特此邊  
 ハ熱國の場所柄なほ其割合よりて凌り  
 産物の硫黄砂糖綿烟草の類其外小麦も出来る  
 由なり○今より八十八年前英吉利船將カビタン  
 コックといふ人初て此島を見出し其節を嶋人の數  
 三十萬人もありし由り其後年々餘糧を出  
 て歸り居る者もあり又ハ痘瘡など流行病にて人  
 の數追々減り當時を十萬人にも足らざる位不

王さまども島小玉あり其家の名とサメハヤハと  
 のふ住居ハホノル、といふ港あり矢張國王  
 の格式にて既に西洋の國々とも條約を取結べ  
 政事向并二年貢の取立方等ハ亞米利加人小頼  
 嶋國として世間を慢るゝいふもや一殊ふこ此島  
 へては多年外國人ニ附合追々物事の道理を知  
 て近來ハ處々學問所と建英吉利の語を誓古せ  
 王○嶋人の風俗ハ甚だ見苦し色も黒く大抵跣  
 裸躰住家として床もなき小屋掛あり斯く穢き島人  
 の中にも賣女あり十人と十人皆病のあふ



由うて一目見ても驚くほどの品物なり旅行の人  
 固より心得違ふ所なきこと以此も用心を  
 サンフランシスコへ着ては同處よりパナマへ  
 の飛脚船ハ毎月三度つく出帆すはゆへ丁度行違  
 ぬて一順乗後るゝとも十日船待すは次の船不  
 乗るべし若しサンフランシスコへ逗留されば見  
 物の場所甚だ多し  
 サンフランシスコハ亞米利加合衆國の内西の方  
 ありふかりホルニヤ州の港あり太平洋の海岸に

一番大なる港にて入口の中一里ニ是を内ハ入海  
 となり長さ三四十里中六七里半月の形ち小廣ま  
 まと幾千艘の船入津をもとも差支なく其入口と  
 コラルデングイトといひ右手の陸地はホルトポ  
 イントブラッキポイントとて二所の臺場あり左手  
 よりアルカトラズといふ小島あり此亦臺場あり  
 此三所の臺場より近來新工夫の珍しき大砲を  
 据付玉の大きき一尺二寸より一尺六寸を亦これ一  
 里半斗の所にも届く由めて要害堅固なり○カリ  
 ホルニヤ州ハ元メキシコの領分なり○彼國の



千八百三十九年即ち日本の天保十年土地の人謀  
 叛と起し彼是と穩れらざり内は八九年を経て彼  
 國の千八百四十八年即ち日本の嘉永元年小至り  
 合衆國よりメキシコへ金と拂ての州を買取  
 永久合衆國の領地となきり時候程よく産物甚だ  
 多し金銀銅鉄水銀石材木五穀菓實牛馬豚羊小至  
 るまでなふいとつ不自由なき國なり此土地と合  
 衆國へ買取るときまでハ人の數もあさり多し  
 ざりし丁度其頃金山と見出し珍しき渡世の道  
 出来を以て付諸國の人追て入込日ごとく其

人數増して遂ふも金山渡世の者斗も十四五萬人  
 の數となり金銀と掘出ること亦夥しき毎年五  
 六千萬ドルラルの高と諸國へ積出して世界中金  
 銀の相場を動かさしむとのいふやまて土地の繁昌  
 一方ならぬ此節あても一七日の間は七十五萬兩  
 余の金銀と掘出るといふ就てをサレフラスとス  
 コも初ハ淋しき所より百姓家の六七軒もあつ小  
 村なりしとも僅十七八年の間は數萬の人家建  
 ならび産物の道次第二開け近來ハ羅紗ブランケ  
 ト等と織る所あり銅鉄の道具と製を所なり金



銀の小間物を作る所あり砂糖と製し酒と造り港  
小ハ諸國の商船と卸して一年の間小船の出入  
二千艘余運上を取立る高二百萬兩下ら實小  
太平洋の東岸は比類なき大都會と比さるゝの地  
起立より以來度々火災ありうごも火事の度毎  
小新ニ普請して家並ハ以前よりよく修り其  
一二を擧げていん小運上所と建るに六十萬兩と  
費一金坐の普請小二十二萬兩海軍の養生所と建  
るときも三十萬兩と費せり又メトロポリタンと  
いふ芝居あり大を構ふと見物人二千人と入る

ベ一其外寺學問所諸問屋宿屋兩替屋等の大造な  
るハ推て知るべ一余がサレフランシスコ一渡海  
せ一を萬延元年より今より僅七年前のものと  
一今茲再其地小行て様子と見る小以前一階  
したる繁昌なり○前よりいひ一通カリホルニヤ  
ハ新小開けたる土地より世界中諸國の人寄集り  
先と争て渡世の道と勵む場所なり既ニ支那の人  
も此國と金山と唱へ先年より金堀の渡世小出掛  
る夫の多く一錢を小國を出四五年も辛抱して  
相應ニ元手とこし一日本國へ歸るも其もあり又



此地小店と出して生涯居附ものもあり此様子  
 と見て考ふ日本とカリホルニア正しく西東  
 向合の鄰國殊に此度の太平洋の飛脚船も出来僅  
 二十日の船路ふく彼地へ渡る處く江戸うら長崎  
 へ道中をゆくりも手輕のめとなきが日本の人も  
 追々カリホルニアへ出掛元手あるまれば交易商  
 賣ととため元手好まものは金山の渡世をして遂  
 へ身代と仕出者多加ふべし此亦日本開國の  
 恩澤ふま  
 サレンフランシスコとニウヨークとの間陸地の差

渡し東西千六百里余の間に蒸氣車の道と造り  
 過半出来てその後三年の内には不殘成就をべし  
 どの様子なり然る上ハ日本より亞米利加へ行くと  
 小船路二十日おてサンフランシスコへ着しをま  
 よ王蒸氣車に乗て千六百里の陸路を六七日おて  
 越すべしまた海陸の旅行一月小足らぬしてニウ  
 ヨルクまで達すべしはまども右蒸氣車は成就を  
 る才でる失張パナマの地續と通すゆへ其道筋の  
 模様を左小記を庵し  
 サンフランシスコおて船に乗替へ南の方パナマ



まて九千五百里十二三日斗の船路なり途中カリ  
 ホルニヤ并ふメキシコの方と左手に見るカリ  
 ホルニヤの海ハ四月と里十月頃までの間北西の  
 風強く時候涼し夏も夜分れど綿入を着る  
 位なり且其海岸を霧深くして甚だしき船  
 の艦も舳のきれも見ざるこゝとあり航海者の心  
 配す所なり斯く八九日渡海してメキシコ領の  
 アカポルコといふ港小普天  
 アカポルコはメキシコ之都より南西の方九十里  
 斗の所あり昔々繁昌を一場所なりともカ

リホルニヤ小金山と見出してサンフランシスコ  
 の港盛なり後ハ遂小此地ハ衰微一當時ハ人家  
 も少く土地ニ出来る産物とてなり時候ハ暑く  
 天氣不揃なり上陸をば今ノ用意をべしよ  
 天氣亦ても直ニ雨の降るあり飛脚船とア  
 カポルコの港ニ錨を卸すあり三時斗ありて石炭  
 と積入直ニ出帆をこせり追々メキシコの方  
 岸と過ぎ中亞米利加の岸ニ沿てバナマニ着る此  
 邊の海岸ハ夏分強く雷の鳴ることあり船中不  
 て雷鳴ハ随分氣味よきものなり



パナマは遠浅にて本船より一里半沖に掛り小船  
 ありて上陸を殊に此邊は汐の満干の多き所なり酒  
 汐より一丈七尺大汐より二丈二尺も差引あはゆ  
 へ小船とては汐時ニ由て動くはることあり○上  
 陸場小あふまを陸ニハ既ち蒸氣車の用意あり  
 て二十里余の地續と二時斗小通越一亞米利加國  
 の向側より出を所アスピンウアルといふ總て  
 此邊の地ハ南亞米利加のニウガラナダといふ一系  
 國の領分にて赤道より北の方八度斗の所ハ當り  
 北亞米利加と南亞米利加との界なり時候ハ暑く

春夏秋冬の差別を四月の末より十二月頃まで  
 と雨の時節より毎日雨此降ること夥しく家の内  
 ニ居ても濕氣深く衣服膳枕小黴の生る如く日本  
 の梅雨より甚だ一斯る暑濕のため折々熱病の  
 流行をることありパナマ熱とて惡症なり旅行の  
 人より用心をべし通行のとき一寸休息ふとる  
 所へ土地の者共菓實又はりモ子イドとて氷の水  
 ニ砂糖と橙汁と交たるを賣り來りいふも味よ  
 く覺えども暑さのありまよ用ひ過るべからず又  
 蒸氣車の内小色くの酒を持來て頗る客へ勧る



とある價もやそ一休道ども大抵質物より一口も  
飲むべからず何れも皆熱病に本小なるおあり  
心得べし○土地の人ハ愚劣して政府の世話も不  
行届なり其一例を擧げていそんよ四年前パナマよ  
瘡瘡の流行して一萬人斗の人数の内ニ千人余の  
死人ありしと其次第ハ土地の人疑深くとて殖瘡  
瘡の法を信仰せざ政府より其世話とをなして  
斯く大勢の人命と落しを命なり○此地續と越  
蒸氣車の路ハ彼國の千八百五十五年即ち日本  
安政二卯年ニ成就せしむる其長と二十二里

余あり途中を不殘山ふてパナマより五里斗の所  
殊更る高し海小較さば其高と二十六丈ありし  
小パナマより次第上る小道を附け坂の急なる所  
を一里ニ付十二丈余の勾配ありて登坂より蒸氣  
車も遅し夫より又段々小進めを下坂となりチャ  
グレスといふ河と越る鉄の橋あり○印度海の  
道と通てスエスの地續を越るとき其土地大抵  
砂原ありて草木少く年中雨の降るふとなく砂埃不  
困るやどぬるがパナマの地續ハ丁度其反對あり  
半年に間ハ雨も降續き一体ニ雲霧深き濕氣地なり



澤小枯草なく木紅葉以て往来の時蒸氣車の  
内より詠まば四方の深山青くして樵夫の跡も  
見を谿水の音幽く聞へ見馴ぬ鳥の古木小啼き其  
景色いふも寂寥き獅子虎蟒以ども此奥山小  
こそ住むことふるべしや思ふる○途中處々小  
三軒又ハ七八軒づく人家あり其様子を見る木  
葉よて屋根と葺くる小屋掛の内は床もなく掘立  
の柱よ空柱へ網のよふれる釣床を掛あり夜分ハ  
はまよ寝ることなほべし子供の十才ありまど  
ハ皆丸裸躰ふて大地ニごろつる豚犬の友達あり

婦人ハ腰巻一つあて立ながら物と食ふもあり大  
の字なり小寝するも何れ又裸躰の子と抱て乳と  
飲を飲者もあり思ふ小此子も此母の子と相違を  
形々違ども睨一人の爺又ありて生きたる妻の  
り其邊ハ甚だ覺束なく  
アスピルウラルまで蒸氣車より下り直ニ船乗  
て出帆を但し此港より直ニ歐羅巴へ行く飛脚船  
を何里ニウヨルクは用事ある者ハ此船ニ乗るべ  
し○アスピルウラルより里ニウヨルクまで千里ニ  
足らぬ七八日よと着るその間の海ハアタラ海と



西洋新案内

のふ大洋なす渡海の中程小シヤマイカ「サレド」  
レ「ゴ」バ、レふどのへる嶋くの間を通了「シヤマイ  
カ」バ、レハ英吉利の領分ふて産物「ハ塩胡椒」  
類あり又左手「西班牙領」のキユバといへる島と  
見るこの嶋はふんど廣一産物を烟草砂糖世界中  
ニ名高き名産なり○アスピルナルと出帆して  
の嶋くと通るべき次第も又冷氣ニ返る凡暑さ  
の甚ぶしなるパナマの地績と通る前後五日づく  
少くして十日あまりの苦ふま。  
ニウヨルクへ着るハ市中の模様宿屋の取扱ぬど

も歐羅巴の諸國と同トことなりぬの所を亞米利  
加合衆國の内一番の都會ふて世界中ニ人の多  
す都と計畫を英吉利のロンドン佛蘭西のパリ  
支那の北京日本比江戸亞米利加のニウヨルクと  
て誰知らざるふハふき繁華の地なり港ふる萬國の  
商船橋と連る林の如く川蒸氣船の往來をゆハ木  
葉の水は流るが如く屋形造り渡船とへレボット  
といひ大船と引く蒸氣船を少グボウトやいふ出  
帆する帆前船あり入津する蒸氣船あり歐羅巴  
から来る飛脚船あり印度海へ行く軍艦ありいら



小廣き川口も竿一本横たふべき透間あり陸小  
 數十萬の人家五階六階小建ふらび間口數十間  
 の大店と端物とかざり呉服屋もあり手狭き  
 店小金銀造の小道具又ハ袖時計れどなりべきる  
 小間物屋もあり一町内皆大家めて表通の静ふ  
 は兩替町なり野菜山の如く魚肉林と為りて人聲  
 の喧しき市場なり車に乗て芝居の番附を觸  
 もあり四辻ふり見世と出して往來の人と招く  
 あり市中と往來をふる馬車も乗り遠方へ行  
 く小蒸氣車も乗り百里の路も日返ふりて其便

利すゆこと多人も翼を附たる如く實ハ世間知  
 らざ此田舎者一ハの有様と見せふば人間世界と  
 を思ふさるべし○斯くニウヨルクの繁華ハ「ロ  
 ン」パリスもおとらぬほどて市中の混雜一  
 方此ら時々間違のこともあるも付町々の取  
 締嚴重なまど土地の繁昌をる小従ハ自然ニ惡  
 黨も多く夜盗押込りかきり火附人殺も間々あ  
 るゆとなきを初ての旅人の別て用心をべし且  
 合衆國も五十年前より南北の合戦ニ莫太の金子  
 と費したる付近來を諸運上の高と増し通用金



の代紙紙札を用る如く少て諸色高直何品も下  
 を六七年前の直段ニ較ぶる二陪三陪となり下  
 の者の難渋ハ勿論他國より來て買物をするも  
 不都合なり  
 合衆國の合戦のいとと記す此の冊子の趣意ニ  
 あらざれども此節彼國へ行々を其話多々合戦の  
 前ハ斯くあり合戦の後を斯くふり此も合戦  
 ニ由て出來ること彼も合戦の時より始りこと  
 など一寸した話の場合も合戦のいとと知ら  
 ざしてハ何事もからず不都合のことどもあるゆ

一其始末を極めたり一記をこと左の如く  
 合衆國の内南の方の國々ハ百姓多く農業と勉  
 め麥綿の類と作す北の方此國々ハ職人の業と  
 專と蒸氣仕掛などあて色々の物と製し商賣を  
 勵む風あり然る所昔より南の方の國々ハ非利  
 加之黒奴と買ひ生涯年期よりて養ひ農業の働  
 き使ふ仕來なり一北の方より心ある人々ハ此  
 仕來と甚だ好まむ黒奴とて人と生涯年期  
 ありて牛馬の操り使ふ天の道理も戻ること  
 まとやうなりくわひハもとより一も南



方ふて今更黒奴とやりふをたたと差支る  
 一申くこまと兼知を彼是よて數年來北と南  
 と不和なり去る萬延元年申年の冬に至り合衆國  
 大統領の代替ニ付次の大統領と入札して人撰せ  
 一所リンコルンといふ人へ入札の數多くして大  
 統領となり一ガリンコルンを固より北の方より左  
 組する人ふて黒奴の一件ニ付てを兼て議論あり  
 ひと此處ハ南の方ふてハ此人と大統領ニそよと  
 と好まざ色くのひあてふて遂ニ南の方のサ  
 ウスカロリナといふ一州合衆國へ叛ききり明る

文久元酉年の春「ミシシピイ」「フロリダ」「アラバマ」「ジ  
 ルジャ」「ロイシヤ」「テキサス」「ルジニヤ」「アルカ  
 サス」「ハラスカロリナ」「テンシイ」の十州もサウス  
 カロリナも興一味の國々十一州より師と起し  
 政府の武器庫ふと奪取てリチエメントといへる  
 所ふ都茂建デイ井スといふ人と頭取りして合衆  
 國の支配と離れ別ニ一の政府と建んと企にて  
 あまじり合衆國北内南北二に分き大合戦の世と  
 なまじり南北二に分き一と北亞米利加の合衆國  
 米利加と南亞米利加と北と二分したるなり北亞  
 とあまじり南亞米利加と北と二分したるなり北亞

西洋衣案内



早速軍勢と集り進み其人數を増して百萬人ふ近  
き大軍となりて頻りに征伐の手配と運らせども南  
の方も中々手強く且を英吉利佛蘭西より内  
こまよ力を添十一州の軍勢五十萬人斗ふて度  
勝利と得て遂に北の都ふるワシントンへ間近  
攻寄せ戊年の冬頃北の方よりほど危き模様なり  
一が其後追々勢と取戻し慶應元丑年の三月に至  
る南の勢次第に衰て大將分の者も段々小降参  
其頭取ふるデイ井スを捕り彌々北の勝利と  
なりて遂に又太平無事の春にふりて合戦の

終らんとす休前も兼て南の方より北の  
大統領リンコルンとだす討に首尾克こまを  
刺殺しなれども合戦の勝負既定を後のおと  
ふと南の謀も水の泡となり徒一人の英雄を殺  
たるのミリンコルンも合戦の始より大統領とな  
り干辛萬苦よく國事の多端なるに堪へ事を決  
るに勇氣あり人を使ふに慈悲あまて上も下も之  
を歸服せざるを致しや斯く非命の死を遂  
に付ては國中の悲一方ならず父母も喪を  
か如くなりしとわふリンコルンの代ふハジヨ



ソントといふ人大統領となり合戦の後より今日に至るまで専ら國中の取鎮とふせに實に此度の合戦は古今未曾有の大軍にて南北双方の人数合せて百五十萬人五の秘術とつく一或は鉄張の軍艦と打建或は地雷火水雷火と工夫し大砲小銃世界小珍らしき武器と造て四年の間數十度の戦場を骨と暴血と流し討死手負其數と知らず子年の春井ルデルニスといふ所より北の大將ゼ子ラルグラントと南の大將ゼ子ラルイと戦ひしと二日の間小敵ニも味方よき討死の數一萬二千人

餘なりといふ○又合戦の間軍用金と費をいとも夥しく毎日の入用百二三十萬ドルラルありしこゆもあま就くも諸運上の高と増したまども尚引是らずして成年の春より紙札を通用せりままども元正金の不足をることなれば此紙札も通用ありく正金半分此價ふもはら子年の夏頃ハ正金百ドルラルと紙札二百九十ドルラルと釣合相場ふなりたる合戦後の勘定も合衆國政府の借財二十七億九千九百九十八萬ドルラルなりと○南の方よて名高き大將をゼ子ラルイゼ子ラル



ジヤクソン等北の方の大將あてハゼ子ラルグラ  
 ントゼ子ラルシヤアマニ等々南の諸大將其外  
 の者も合戦後何事も謀叛の罪と赦れきて差構  
 れし當時に合衆國ふてゼ子ラルグラントの評判  
 甚ぶ高し今の大統領ジョンソン来る已年の春交  
 代の期限ふるゆへ其次ハ格蘭ト大統領と  
 なるべしとの風説ありて  
 右を合衆國合戦の大略を王尚委し其ハ近日開版  
 の西洋事情第二編ニ記すべし  
 西洋旅案内卷の下終

西洋旅案内附録

商法

世界中ニ旅行せんと思ふ人の本編を見て略其手  
 續と知り外國の模様も大概分りあたるべし  
 是れも外國へ旅行するに用事ありし所へ遊  
 行く者も亦何れも學問の執行又商賣のため  
 知らん學問執行の人形をとりて世話人と頼て一  
 年六七百兩の入用と掛け自分の誓古一式にて  
 外ニ心配ハなきまども今外國へ行て交易商賣と  
 せんハ略彼國の商法を知らざれば必ず不都合



西洋の事  
且商法のこと外へ出交易を仕者斗は限  
らる日本<sup>の</sup>交易場<sup>にて</sup>外國人<sup>と取引する者</sup>とて  
も同様の<sup>誤り</sup>大略<sup>其振合と心得</sup>を以て損を  
とる<sup>日本國の損</sup>なり<sup>これ</sup>を譬<sup>へ</sup>素人<sup>が圍碁</sup>同ト  
たとひ<sup>練磨</sup>ふて<sup>上手</sup>の様<sup>に見るとも碁の定石</sup>と  
知らざる<sup>ゆへ生涯</sup>さる<sup>碁の仲間</sup>と免<sup>を</sup>石<sup>の次</sup>  
第<sup>二</sup>付<sup>今</sup>この<sup>卷</sup>末<sup>に</sup>彼<sup>國商人</sup>の<sup>取扱</sup>ふ<sup>金の取</sup>  
引<sup>商賣船</sup>の<sup>雇方</sup>海上<sup>荷物の請合</sup>方<sup>等</sup>商法<sup>の大略</sup>  
三四<sup>箇条</sup>と記<sup>して</sup>本<sup>編</sup>の<sup>附録</sup>と<sup>を</sup>せ<sup>至</sup>固<sup>より</sup>日

本<sup>も</sup>あ<sup>て</sup>も<sup>町人</sup>の<sup>商賣</sup>は<sup>眞劍勝負</sup>して<sup>其加減</sup>差<sup>引</sup>  
精密<sup>と極め</sup>余<sup>輩</sup>の<sup>傍</sup>に<sup>彼是</sup>と<sup>議論</sup>を<sup>な</sup>す<sup>こと</sup>  
萬<sup>々</sup>ふ<sup>々</sup>と<sup>世間</sup>ふ<sup>々</sup>と<sup>新出来</sup>の<sup>商人</sup>を<sup>あり</sup>又  
ハ<sup>素人</sup>より<sup>町人</sup>の<sup>眞似</sup>と<sup>する</sup>者<sup>も</sup>あり<sup>べ</sup>  
と<sup>は</sup>其<sup>人</sup>の<sup>爲</sup>ふ<sup>外</sup>國<sup>交易</sup>の<sup>定石</sup>と<sup>知</sup>し<sup>め</sup>  
んと<sup>欲</sup>する<sup>の</sup>ミ  
コンシユル<sup>勤方</sup>の<sup>事</sup>  
コンシユル<sup>と</sup>其<sup>國</sup>の<sup>政府</sup>より<sup>付</sup>ら<sup>は</sup>外<sup>國</sup>の  
港<sup>へ</sup>勤<sup>番</sup>して<sup>本國</sup>より<sup>交易</sup>ニ<sup>來</sup>る<sup>商人</sup>の<sup>取締</sup>と  
る<sup>役人</sup>より<sup>ゆ</sup>つ<sup>ふ</sup>其<sup>商人</sup>等<sup>外國</sup>より<sup>難題</sup>と<sup>蒙</sup>



ことあり此がコンシユルたらん者其國と取結  
 條約の理合と押立港の役人と掛合て其難題を救  
 けるべし又其國人小罪と犯る者おき其仕  
 置とをること出来ざれどもられ代召捕て本國  
 へ送返そ大のことい取斗ふ庵一但し其國人の  
 とは舟港の役人と掛合と盡して事落着せざると  
 同し外國の首府へ勤番する由一あさ一持出  
 ミニストルより同國の政府へ談判するを誓へ  
 支那亦ても上海廣東其外五箇所の港ニ諸國の

コンシユル勤番してミニストルを其首府なる北京  
 住居せし若し右五箇所の港よりコンシユルと其  
 地の奉行との掛合向決斷し難きことあるを北京  
 のミニストルへ持出しミニストルと北京の重役  
 との談判して事落着し及ぶなり○本國の高賣船  
 入津そきを其船主より船の書附積荷の目録等と  
 コンシユルへ渡りコンシユルよりこれを港の運上所  
 へ差出し荷揚終て出帆のときも運上所より出帆  
 の免状をコンシユルへ渡す都て此等の世話とを依  
 らるコンシユルの役前なり○コンシユルの役金は本國



の政府より出たものは又其國の商人より  
世話料と取るものも何れ商人より世話料と  
取るのことは政府の役金と受取る者のコンシユル  
の役義と勤る傍に商賣とあるとも差構なり

兩替屋の事

西洋の商人を自分の手許に正金と置くにせぬ  
皆いさと兩替屋へ預り入用のとふ受取又  
他人一金と拂ふと兩替屋の手より其人へ渡す  
仕法小なり其便利あることと擧げていそん一  
る金と大大夫なる兩替屋も預り込を紛失の心配な

二ハ正金を方へ持運をざるゆへ盗難の心  
配なり三ハ人と金と取引をゆへ金性の善惡と  
見分け數と改る手間を省き就て店の人數と減  
して入用を省くべし四ハ手許に金をゆへ番  
頭其外召使の者小引負の出来ることなり○金と  
兩替屋も預り込を先自分の名前書判を店の帳面  
留置く然る上と兩替屋より當人へ金の預高と記  
したる小帳一冊と別なチエツキとて短冊形の切手  
二三十枚横帳に綴り書き此を渡す即ち小帳を金  
子預の證據なり初右の如く二冊の帳面と請取



其後金の入用あるときハ横帳の切手と一枚切て  
こま何程の金高を請取と認め書判を記して兩  
替屋へ送る正金と引替ニそ又他人へ金と拂ふと  
さも同ドめとふて誰へ何程の金と渡すべしと  
記して其當人へ切手と渡さる當人ふて兩替屋へ  
行金と請取べし兩替屋ふてハ唯切手の書判と  
證據よるゆへ先ニ店の帳面へ留置し書判と引  
合せ相違ぬを誰よても人の顔ハ構金と  
渡すことなり斯く追くる金と請取了間又此方  
より預ることあれ例の小帳と持參して其預高

と記させ置き最前の振合ふてあまを受取る右の  
次第にて金を預る者ハ取引の手數を兩替屋ハ讓  
り且受取渡しニ付間違ぬを此亦兩替屋の引受  
今引ゆへ此方ハ安心して商賣取掛るべし○金  
と兩替屋へ預るを商賣人の身ニ取て格別調法な  
ることあり其次第を兩替屋と取引の仕様にて已  
り身元の正さぬと世間へ吹聴を依術もなり  
又他人の身元と聞糺を手掛るも此るべし商賣の  
上ハ火切ふることなり○兩替屋を大丈夫の  
主藏あるゆへ得意先の人ハ大切の書附類其外金



西洋の金貨

銀寶玉なども預置くべし。○兩替屋へ世話料を取  
る仕法二通りあり其一年の間取引を始  
終兩替屋の方へ金の残る様は其金と融通を  
利分と兩替屋へ取て別々世話料を又一の仕法  
は兩替屋へ残る金へ通例の利息と附て勘定  
と濟し世話料として一年に惣金高の八百分の一  
又ハ四百分の一と取ることあり八百分の一と  
八百兩二付一兩を四百分の一とを四百兩二付  
一兩なり其高下ハ時の約束次第なり  
為替と遠方へ金の取引と便利なる為の事

今譬へ佛蘭西の一助より英吉利の二助へ  
三百兩拂ふ金あり然る所英吉利の三助ハ佛  
蘭西の四助へ二百兩同五助へ百兩拂ふべき約束  
ありこまふ由一助を英吉利の二助へ正金を送  
らざして佛蘭西の四助より二百兩の手形と五助  
より百兩の手形とを買と二助の許へ送るハ二助  
此手形を以て三助より三百兩の金を受取へ  
故に兩國の間正金の持運とせざして双方の取  
引皆濟すべし。○右ハ為替の大趣意なり兩替屋の  
取扱もあり又平の町人までも身元なる者を自分



西洋  
船  
務  
記

手形と出天近來ハ其仕法追々手廣くあまて品物の買主より賣主へ代金と拂ひ速方の人へ借財と返済するも皆為替と取組て正金の遣取を甚だ稀なり○為替手形の文言左の如し

光

一 幾多儀百也

右者裁更取の言を付てをり之後何某は可

は右流の仍如件

月日

場所附  
名宛

場所附

姓名書判

右ハ一國の内ニ通用を依手形の書様なり外國と為替を取組む仕法并ハ手形の文言を上巻の初小記せり

商賣船雇入の事 ナヤルトルバルチ

商賣船と雇ふハ日數を限リ一艘借切ニすることもあり又ハ半令借るも何れ左ハ其證文の一例と記すハ一と見テ一船の振合を知らべ此雇船と帆前船ふて英吉利の都ロンドンより西班牙の港カヂスといふ所へ乗廻り同處より羊の毛と積りロンドンへ歸るまで借切よりたるも

西洋  
船  
務  
記



のなり但しロンドンよりカヂスまでを海上五百  
五十里斗なり證文中ある船賃の高と見せば大  
凡其割合も分るる

雇船の證文

フリイドム船の船頭エドワルドとロンドン  
の町人ロスと雇船此ことあ付双方左の通り取  
極た王但し右船は百四十ト積りて當時ロ  
ドンの川口あま一ト船ハ八九百石積りて  
此船も大大夫ニ渡海をばさる能なる付此度  
カヂスへ赴き羊毛六百俵其外の荷物も船相應

よ積りてロンドンへ歸り荷主の差圖通り何  
の場所よても荷揚はべし船賃を羊毛の正味二  
百二十四斤入十目なり外荷物運賃も同様の割  
合ふし且荷積の手數銀として惣運賃五分を  
増し賃銀拂濟の上荷物と引渡をべし但し海上  
不時の災難と双方共差構なく船を損をせば  
船頭の損亡とし荷物と損をれば荷主の損亡を  
るる

一 船賃ハ荷揚のとよ正金よりて半高渡り残半高ハ



荷揚の日よて三月の後小正金と受取べき手形  
と渡すべし

一カヂスよて荷物と積ロンドンへ積廻して荷揚  
せよゆて船の働く間と四十日と定む但し日の  
日限ハカヂスへ着船して荷積の用意出来し日  
より計ふべし又荷積荷揚の都合は由て日限よ  
り長く船と引留るとも十日と限と若し十日  
と過るとも一日は自三ポイント一ポイント未  
當三シルリングと船頭へ拂ふべし○若し此の  
約束に違背するときは三百ポイントの過料と出

右の取極相違なき互に調印するまじなり  
へ貸すべし

船頭姓名書判  
荷主姓名書判

月日ロンドンよかる



右の通り同文言の證文と二通認て船頭と荷主と  
互ニ取替ることなり

積荷請取状の事 ビル・オ・レイ・ダング

商賣船を借切ふとて荷物のミと積込むと

と船頭と其荷物の受取書と出さこまと積荷受

取状といふ萬一荷物紛失等のいとあれ此受取

状と證據ふして船頭へ掛合ふ庵一今ある一

ありこまごロンドンと魯西亜の都ベイトルス

ボルフまで更紗并ニ毛織物と送一とさの受取状

形り

覺

一印荷物

一番と十二番まで

當時ロンドンとドックといへる船入の場所へ繫げ

るラヂペイルウ船のへ船頭コビンなる者乗込

ペイトルスボルフへ赴くと付商人ブルックスの

荷物更紗五箱毛織物七包前書記号番附の通り

慥ニ請取す右船へ積込船中にて荷物の損せざ

る様心附け積込のとき同様の形にてペイトル

スボルフまで送届同處ニおるて運賃三ポイント

トハシルリングと別ニ荷積の手數銀五分の割



増と請取と一取とて商人バルトンの組合へ荷  
 物と引渡をべし但し海上不時の災難と船頭の  
 引受ふあらざ  
 右約定の證據として同文言の請取状四枚と渡  
 そし付此内の一枚と以て荷物と引替はそれ  
 残三枚は不用たるべし

月日ロンドンより  
 右の帆前船より荷物を送ること四へ運賃も下直  
 なり飛脚船に荷物と積むとむる其運賃余程高し  
 佛蘭西の飛脚船よりマルセイユより横濱まで  
 船頭コビン書判

荷物と送る小其賃錢凡一尺立方の物より三十  
 フランク又重き品物の目方より運賃と定め百  
 斤に付百二フランクとあり但し一斤の目方の  
 百二十目は當り一フランクを銀八外余は當る  
 金銀の價の上巻の通用  
 金相場の条と見る  
 亞米利加のニウヨルクより横濱まで荷物を送  
 る小飛脚船の急便はきざ一尺立方の物より四  
 ドルラ二分又重き品物より其目方一尺立方  
 付四十五斤の余は上ま目方より賃錢と定  
 め百斤に付九ドルラ



同飛脚船の並便なまを一尺立方の物ニ付二ド  
 ルラ一五厘目方の品と百斤ニ付四ドルラ  
 ル半但火薬金銀其外硝子の鏡等損一やまき  
 品ハ別段ニ運賃増を  
 横濱より諸方へ荷物と送る運賃左の如し  
 上海一蒸氣船ふまが絹糸一行李ニ付三ドルラ  
 ル半外荷物ハ目方一トニ付五ドルラ一ト  
 二百貫目帆前船ふまが一尺立方四十坪まで三ド  
 十貫目帆前船ふまが一尺立方四十坪まで大  
 ルラ四ドルラ一尺立方四十坪まで同し  
 香港一帆前船ふまを一尺立方四十坪まで四ド

ルラ半より五ドルラ蒸氣船ふまを六ドル  
 ラル  
 英吉利のロンドンへ綿茶を送るふを一トニ  
 付三ポイントより三ポイント半一ポイントハ三  
 付三ポイントより付四ポイントより四ポイント半  
 亜米利加のサンフランシスコへを一尺立方四  
 十坪ニ付六ドルラより八ドルラ蒸氣船を  
 送バ同斷ニ付十五ドルラ  
 同ニシヨルクへ帆前船以て同斷四十坪ニ付  
 二ポイント半より三ポイント蒸氣船を送バ四十五

西洋



西洋の事

ドルラル

右運賃の割合ハ商賣の模様ニ由テ時々高下の違  
ある四一極き余ものと思ふべうらな

商賣船賃入の事

商賣船又ハ其積荷と引當小一て金を借るめとあ

るべき約束取り斯く危き引當なる四一高利と取

るとも國法ニおゐて差構ふ一大概二割半より三

割までの利息と取都て西洋諸國小て金貨の貸

借ニ其利息三分より五分と限と一五分より高き

と高利と名く○斯く金子と借て出帆一其船途中

ふて破損それ余儀なくこまを修覆する不又其

荷物と引當よ一て金と借るめとあり然りとふを

兩度の借金と返濟する不後借るる金と先ニ返

ると以て常法と云其次第ハ二度目の金如くして

ハ船の修覆も出来を行くべき所一行く庵うら市

マ一々の訳なり

荷物送状の事

送状と云遠方の人より注文と受て品物と買ひこ

まを船積先方へ送るとその書附あり其認方



左の如し

ジョンソン社の組合より綿六百俵をジュリヤ船の一積込に  
船頭ゲレイなる者の手よりリイウルボウル 英吉利のの町人ス  
港の名  
ミス組合へ送る荷物の送状

一 五万四千四拾ドル 綿六百拾俵代

目方九万三千六百斤但し其斤より拾六セント之

一 五万五千九拾六ドル 同四百拾俵代

目方八万六千四百斤但し其斤より拾四セント之

俵数合五五百俵目方拾八万斤

代金貳万六千二百六拾六ドル

一 六拾貳ドル 品物買入仲買の口張を俵代

拾六セント

一 四拾ドル 為替取立三拾八セント

一 三拾ドル 雜用

一 貳万六千貳百四拾貳ドル

一 千四拾九拾六セント 荷物差を為替取立と其積料惣

高四分と割合

總一貳万七千貳百九拾六ドル 六拾八セント 一セントとドル 百分の一なり

月日ニウヨルクよおきて ジョンソン組合書判



賣捌勘定書の事

人の荷物と引請てこまきと賣捌き其勘定を荷主へ  
 送る書附を荷物賣捌の世話料と其時の模様  
 由て定め難し荷物引請の商人回家して世間名  
 の通るたる者ふまは世話料高く賣捌を恣意金高  
 の内より二分又ハ二分五厘時として三分も割  
 合と取ることあり新家の商人をれせ世話料も自  
 ららやまし今あるふ伊太里の港シドニの商人英  
 吉利の人より麥酒と引受てこまきと賣捌き其荷主  
 へ送る勘定書あり

船頭スミス乗組のバンクス名船の上を運たる麦酒百六拾八  
 箱と清酒百ロンドンの商人ジャニコンのためふこを賣  
 捌きし勘定書

一七拾貳ポイント

麦酒四拾八箱代

德利百四拾四組入寄組代格シルリング

寄組と德利  
格二本

一五ポイント格シルリング

同五箱代

同格五組入寄組代格シルリング四ベンス

一八拾六ポイント式シルリング

同八拾貳箱代

同式百四拾六組入寄組代格シルリング

一貳拾ポイント

同貳拾箱代



西洋  
田代

同六指組入を組付代六シルリング四ペンス

一 四ポイント

同五箱代

同指五組入を組付代五シルリング四ペンス

一 六ポイント

同八箱代

同式指四組入を組付代五シルリング

一 百六指八箱徳利五百四組入

代金百九指三ポイント指式シルリング

内諸入用と引くことなす通

一 四ポイント四シルリング

物揚場運上り代付六ペンス

一 式ポイント指式シルリング四ペンス

此者妻河と入札まで妻拂ひと其代金百貳指を  
ポイント指式シルリングと入札の運上りを分る割合と以て  
壹ポイント指六シルリング四ペンスと拂ひ外に雜用指六シル  
リングを如へ前書と高とかなる

一 指九ポイント七シルリング四ペンス

此活料並に荷物引受の割合と々惣高の内を割引

一 式指六ポイント式シルリング八ペンス

引引後百六指七ポイント九シルリング四ペンス

月日シドニよ抄りて

井ルン組合書判

西洋  
田代



災難請合の事

災難請合の事イシユアランス  
 災難請合の商人の組合ありて平生無事の時ニ  
 人より割合の金と取て萬一人へ災難ありし組  
 合より大金と出して其損亡と救ふ仕法あり其大  
 趣意ハ一人の災難と大勢不分明の僅の金と棄て大  
 難と道るく誤して譬へ今英吉利より亞米利加  
 一萬兩の荷物を積送るも二百兩斗の請合賃と  
 拂へて其船ハ難船なるも荷主と償を取返す  
 又此一萬兩の荷物を二百兩斗引請商人の組  
 合も數千艘の船を請合ふことゆへ其船百艘の内

二艘難船なるも九十八艘の請合賃と以て二

艘の償となせざるを得ず若し又世間ニ

火事難船多くして請合人の始終償金と出た斗の

様小くハ損亡なまじも斯く災難の續くおともな

く丁度平均して双方より様小割合となせり○災

難の請合ハ三通あり

第一人の生涯と請合ふ事此法の甚だ入り組を

あとなり素人同士組合と結て若し組合の内ニ病

氣其外災難不逢ふ者あるは組合一統とて金を出

一合せてのまを救ひ又その死後其妻子と扶助を



るものとあり又或る商人も元金を以て組合を立人の生涯達者の内三年何程の金と取て若し其人病氣を煩ひ渡世の出来ざるよふなきを死ぬまでの手當と年々組合より拂戻し又を約束次第にて死後の妻子と養ふこととあり又或る商人は組合ありて此組合一年積金と納む十年二十年十年の限ありて毎年積金の高と減し年限と終むと金と出さざりて其組合に入りて其後と却り仲間の割合と取て其身の老後死後の暮向と立る法もありと都く此請合と年の老若生質の病身と達者と小

由て年々金と納む高も多少あり又平生より死後の覺悟と思ひ商人の組合へ金と納め置きし老若年々及で不幸ありて妻子を失ひ死後の心掛なき様小なりし者も夫まで拂ひし金を自分生涯の内より取返し安樂に命を終るものとあり○都て災難請合の約定は其國の政府へ貫たるものあり萬一其約定は付間違ひること起まば政府の裁判と受るゆへ約定するときはも政府へ訴へ夫がゆへ運上を納むこととなり英吉利にて人の生涯と請合ふ約定の運上左の如し



請合の金高五十ポント付 運上ニシル半  
 同五十ポントより百ポント 同五シルリシダ  
 同百ポントより五百ポント 同一ポント  
 同五百ポントより千ポント 同二ポント  
 同千ポントより三千ポント 同三ポント  
 同三千ポントより五千ポント 同四ポント  
 同五千ポントより以上 同五ポント

第二 家宅諸道具商賣品田畑山林等を請合ハ火  
 事又ハ雷の落ることあるときは其損亡を償ふ商  
 人の組合ありこれを火災請合といふ其請合賃

家作の良否場所柄の摸様等小由り甚だ相違あり  
 四 への、小記一難一  
 第三 渡海中船の災難を請合ハ萬一其船難船を  
 るり又ハ賊船を掠取る等の際とあるときは船  
 并ニ荷物の代金と償ふ仕法あり是を海上請合  
 といふ西洋諸國ニ海上の請合と渡世ニなる商人  
 の組合多々あるも其最も盛なり其英吉利の  
 ロイドなる同國の都ロンドンホロイドの仲間と  
 て商人の組合ありて諸國の船を請合ハ其仕組甚  
 だ洪大なり凡全世界中の港亦此組合の出店あり



出所其出店の者共始終港に住居して船  
 の出入難船の始末海上風波の模様等と取調へ又  
 此方にて新艘と打建ることあるは其善惡をも  
 見分て一と此とロンドンの本店へ知るゆへ本  
 店の帳面ハ世界中の船の負數大小新古善惡船  
 号并船頭の姓名に至るまで事明細に記せば故  
 小何達の船もロイドの店に行き海上請合の  
 掛合をそれぞ店の帳面を調べ此船は速く大丈夫  
 形も四一請合貸と何程彼船を速く古船にて請合  
 賃も高しれど、直に其相談調ふのと又其船

渡海中風波小逢ひ荷物と損して港に入ること  
 れどあ此を其港に居るロイド組合の者共直に船  
 へ乗込て其模様を改るゆへ船頭もて不正の事も  
 出来ず都々の始末も不行届のことなり此迄一  
 口といへばロイドの組合ハ萬國商船の取締とな  
 る者なり○ロイドの組合ハ人数を限り元金と定  
 る者ありあらば何人もても金を出して組合に入  
 る者不者といふを許し其人数甚だ多し且船と  
 請合ふ少人数にて大金と引請てを萬一の節不  
 都合れるゆへ譬へば千兩元金のある者も其金と



一 ロ 出さざりて二三艘の請合小分つ様もせり  
 大抵其組合の者一艘の船に付一人より三四百ポ  
 ントより多くの金高と請合ふ者なりさきども組  
 合と集まると一艘の船に六十三萬ポントの高と請  
 合ひしことあり組合の多くして商賣の大なるこ  
 とも推して知るべし ○海上請合の賃銀も船の善  
 悪海上の遠近より由り高下あり大抵五厘より三分  
 まてなり英吉利にて海上請合に付政府に納る運  
 上の割合左の如し  
 一 英吉利國內の商賣にて海上請合の賃銀一分よ

り以下なきは請合の金高百ポントより付運上一  
 シルリング六ペンス  
 一 同断めて請合の賃銀一分より以上ぬきは同百  
 ポントより付運上ニシルリング六ペンス  
 一 外國へ渡海する船にて請合の賃銀七厘五毛よ  
 り以下なきは同百ポントより付運上一シルリン  
 グ三ペンス  
 一 同断めて請合の賃銀七厘五毛より以上一分五  
 厘より以下なきは同百ポントより付運上ニシル  
 リング六ペンス



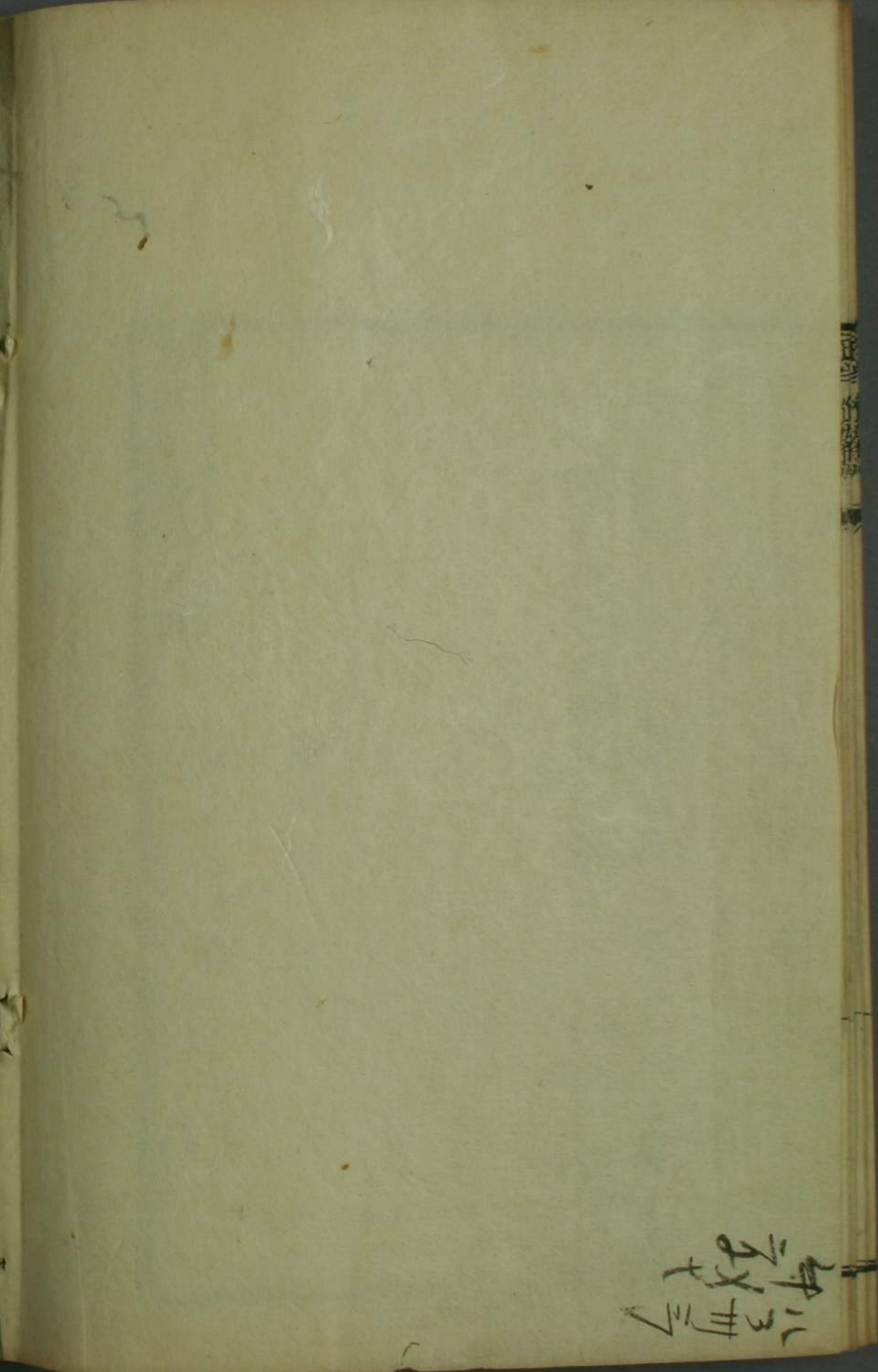
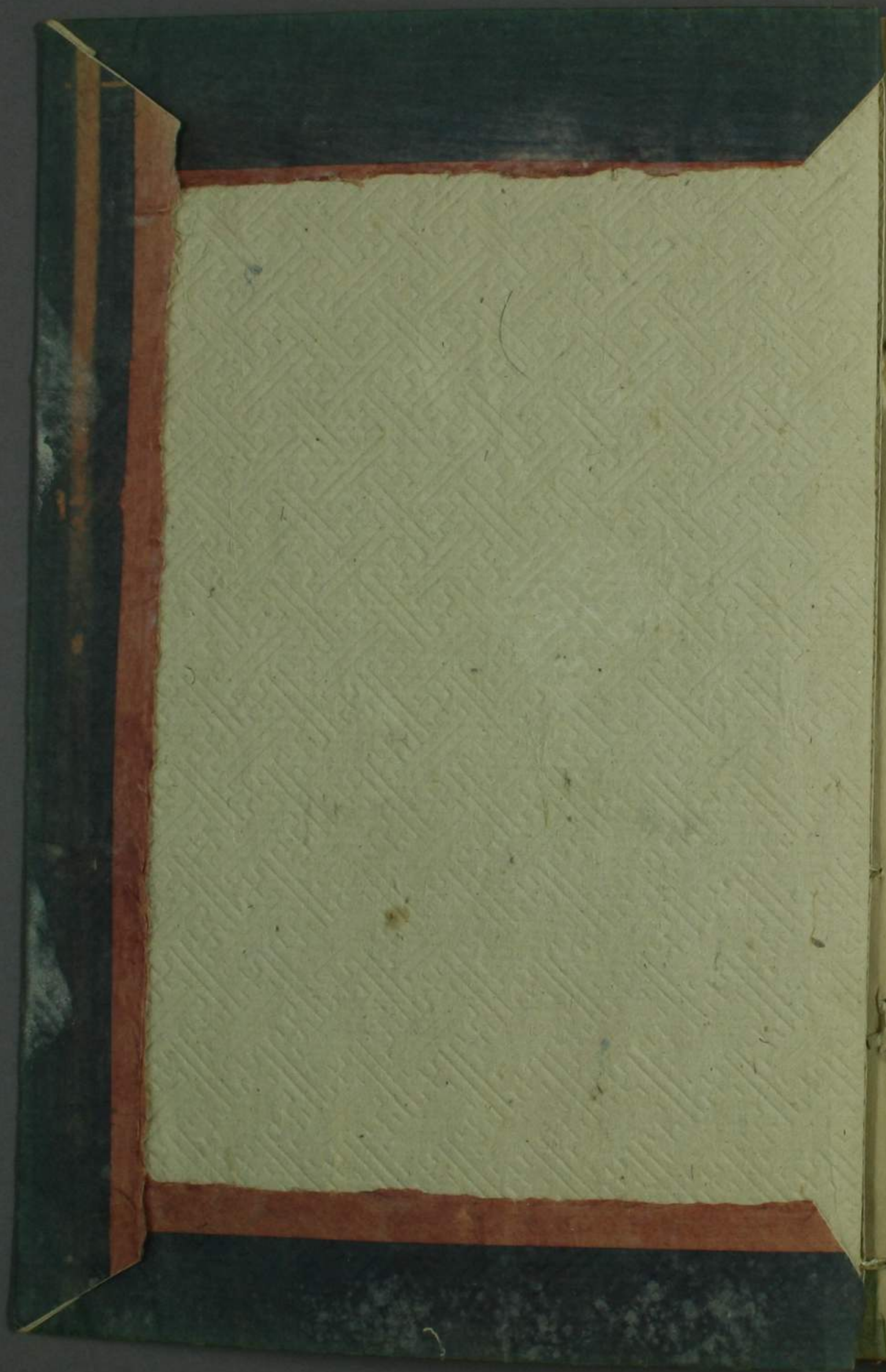
一 同斷りて請合の賃銀一分五厘以上なきを同百  
 ポントる付運上五シリリング  
 一 海上請合と十二箇月と限る若しその月數と過  
 きは新小約定の證文を認むべし  
 取るの  
 となり

西洋旅案内大尾

每部以此印  
為藏版之證







第八卷  
終



